



日本蛋白質科学会ニュースレター

Vol. 9, No. 8 (2009)

第 10 回日本蛋白質科学会年会(平成 22 年度)の概要と シンポジウム、ワークショップテーマ募集のお知らせ

第 10 回年会は 2010 年 6 月 16 日(水)~18 日(金)の日程で札幌コンベンションセンターにおいて開催されます。

■年会概要

開催日:6 月 16 日(水)~18 日(金)/懇親会 6 月 17 日(木)

会場:札幌コンベンションセンター <http://www.sora-scc.jp/>

演題募集:2010 年 2 月 22 日(月)~3 月 18 日(木)(予定)

参加募集:2010 年 2 月 22 日(月)~4 月 15 日(木)(予定)

年会ホームページ <http://www.aeplan.co.jp/pssj2010/>

また現在組織委員会企画として、以下のプログラムが決定しております。
(タイトルの一部は仮のものです)

シンポジウム

1. 蛋白質合成装置リボソームの最新像 田中勲(北大)、内藤哲(北大)
2. 蛋白質研究法:先進計測・解析技術の新展開 出村誠(北大)、金城政孝(北大)
3. 公募型シンポジウム
4. 若手奨励賞シンポジウム

なおシンポジウム 1 の中で、今年度のノーベル化学賞受賞者 Venkatraman Ramakrishnan (MRC) の基調講演を予定しております。

ワークショップ

1. 実用化指向の蛋白質科学 津田栄(産総研)、宮崎健太郎(産総研)
2. オートファジーの機構と構造 稲垣冬彦(北大)、大隅良典(東工大)
3. ユビキチンシステムにおける酵素タンパク質の多様な生体機能
畠山鎮次(北大)、山口淳二(北大)

4. シトクロム P450-基礎から応用へ 田村具博(産総研)、有澤章(メルシャン株式会社)
5. 過渡的複合体の視点から生命現象を捉えなおす
嶋田一夫(東大)、神田大輔(九大) 新学術領域共催
6. 天然変性タンパク質研究が目指すサイエンス
佐藤衛(横浜市立大)、西村善文(横浜市立大) 新学術領域共催

■公募

公募型シンポジウム1題、ワークショップ数題のテーマを募集します。いずれも150分を予定しています。会員の皆さまの積極的なご提案をお待ちしております。

応募される方は、

- ・シンポジウム、ワークショップのいずれを希望するか
- ・テーマ名
- ・オーガナイザー2名の氏名と代表者の連絡先(電話、メールアドレス)
- ・概要(200字程度)
- ・予定演者(5-6名)

を記入の上、11月25日(水)までに、年会事務局(pssj2010@aeplan.co.jp)まで電子メールでお送り下さい。採否に関しましては、後日実行委員会で決定し、お知らせ致します。

第10回日本蛋白質科学会年会

年会長 田中 勲(北海道大学 大学院先端生命科学研究院)

プログラム委員長 内藤 哲(北海道大学 大学院先端生命科学研究院)

電子メール版ニュースレター発行

〒562-8686 大阪府箕面市稲4-1-2 千里インターナショナル内

日本蛋白質科学会事務局

Tel: 072-729-4125, Fax: 072-729-4165

E-mail: pssj@senri-inter.jp

URL <http://www.pssj.jp>

(編集責任者: 萩原義久) 2009年10月26日